

2019年度

(令和1年度)

事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

学校法人 桐朋学園

目次

1 法人の事業総括	1
2 法人の概要	
(1) 建学の精神・教育理念及び沿革	3
(2) 設置する学校	4
(3) 設置する学校の学生生徒等数の状況	4
(4) 収容定員充足率	5
(5) 役員の概要	5
(6) 評議員の概要	6
(7) 教職員の概要	7
3 事業の概要	
(1) 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
① 男子部門	8
② 女子部門	12
③ 音楽部門	15
④ 法人本部	19
(2) 施設設備の取得	20
(3) 学費及び補助金等	22
(4) 入学試験結果	24
(5) 教職員研究研修	26
4 財務の概要	
(1) 決算の概要	
① 貸借対照表	29
② 資金収支計算書	30
③ 事業活動収支計算書	32
(2) 主な収入の推移	
① 学生生徒等納付金収入	33
② 入学検定料収入	33
③ 補助金収入	34
(3) その他	
① 有価証券の状況	36
② 借入金の状況	36
③ 学校債の状況	36
④ 寄付金の状況	36
⑤ 関連当事者との取引の状況	37
(4) 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
① 男子部門	37
② 女子部門	37
③ 音楽部門	37

1 法人の事業総括

1. はじめに桐朋学園の構成など

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布、富山に展開する音楽部門の、三部門から成っています。男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校、桐朋高等学校があり、2,191名の児童・生徒が学んでいます。女子部門には、桐朋幼稚園（共学）、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校（普通科）、桐朋学園芸術短期大学があり、1,730名の児童・生徒・学生が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋女子高等学校（音楽科・共学）と桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学大学院が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、969名の生徒・学生が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

桐朋学園は、内部的には部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。そのことが部門間相互理解の上に、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。部門ごとに教育に特色はありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

2. 外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

文部科学省はこれまで、大学入試改革をはじめとする高大接続改革と、学習指導要領の改訂とを併せて進めて来ました。変化の激しいグローバル社会を力強く生き抜くために、知識偏重型の学校教育を抜本的に見直し、自ら考え、対話しながら、多様な視点で学ぶ教育への転換を目指しています。いよいよ令和2年度の小学校を皮切りに「新学習指導要領」の導入が順次はじまりました。しかしながら令和2年度開始予定のセンター試験に替わる大学入学共通テストでは、公平性や採点を巡る問題から議論が絶えず、ぎりぎりのところで、大きな改革の目玉であった英語で4技能を問う民間試験の活用と、国語と数学の記述式問題の導入が、それぞれ相次いで実施見送りとなりました。

また、働き方改革関連法の施行に伴い、部門ごとに必要な対応について情報交換し、進捗状況の確認等情報の共有に努めました。私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更や中期的な計画の策定等への対応にも大きな力が割かれることとなりましたが、遺漏なく対応を進めることができました。

こうした中、日本社会及び教育界の動向をしっかりと押さえた上で、「教育の質の向上」（魅力ある教育、優秀な教職員の確保育成、施設設備の充実等への投資）と「健全な財務運営」（財務内容の改善、そのための人件費、経費等の削減）という、一面相反する難題への機動的な対応が桐朋学園には常に求められています。

平成31（令和元）年度の出発にさきがけ、各部門に対し「平成31年度予算編成の基本方針」を示しました。内容は、先に述べた「教育の質の向上」と「健全な財務運営」の両立を図るために、①必要な学生・生徒数を確保すること、②支出にメリハリをつけること、③一定の収支差額を確保すること、④単年度の予算編成に中・長期の財務計画を併せ持つこと、などから成り、各部門はこの基本方針を踏まえて、平成31（令和元）年度の事業計画の策定と当初予算の編成を行い、この一年着実に履行して参りました。

男子部門・女子部門・音楽部門が共通に抱える最大の課題は、入学志願者数及び必要な入学者数を確保することです。どの部門、どの学校も、教育内容の充実にも努め、適切な広報活動を行い、各学校の教育内容のPRに努めてきました。その結果、男子部門は、小中高の各学校とも、必要な入学者数を確保しています。中学は入試改革5年目となり、優秀な受験生を確保したいとする目標にも一定の成果が認められます。女子部門中高の生徒数確保は、法人全体にとっても解決すべき重要課題でありましたが、結果の改善には未だ至っておらず、目標の達成には学校改革を含め更なる努力が求められています。音楽部門は大学・高校とも、入学者数をわずかに回復し、大学は前年比+8名の167名、高校は前年比+13名の63名、大学院は11名の増員となりました。

以下、平成31（令和元）年度における各部門の主な事業について、その概要を報告いたします。

3. 男子部門の主な事業

- 1) 新しい学習指導要領に基づく独自の教育課程をどう構築するか。小学校は令和2年度から、中学校は翌令和3年度導入開始となる新しい学習指導要領のもとでどの様な力をつけさせたいのか、教職員の合意のもと具体化は大きく前進しました。小学校のEnglish Communicationの2年目となる指導も、中学との一貫した指導カリキュラムを編む研究は、具体的に大きく前進しました。
- 2) 進路指導の見直しを図り、具体的な取り組みが充実した1年でした。加えて、日常的な指導の改善・充実にも取り組み、自律し、自己指導能力を有する学習者を育てる取り組みの具体化に取り組みました。
- 3) 桐朋の魅力発信に向けて、広報活動の充実に注力しました。目に見えて忙しさの増した広報担当者の体制を見直しました。

4. 女子部門の主な事業

- 1) 短期大学では、初の「学位審査申請」の年となり、全力を挙げて指導及びサポートに臨みました。課題は残りましたが15名の学生が学位取得を果たしました。
- 2) 中高部では、中学入試において目標が達成できていなかった入学者数の確保のために、改めて「入学志願者」及び「入学者」の安定的確保に向けて、学校改革、それと併せた広報の充実に努めました。しかしながら十分な成果には未だ繋がってはいません。学校改革に於いて有効な施策が求められています。
- 3) 初等部は新学習指導要領に則った教育課程の完成が課題でしたが、道德教育、英語の教科化、外国語活動、多文化共生教育等の目玉として「地球市民の時間」を設立し、多面的な活動を開始しました。

5. 音楽部門の主な事業

- 1) 仙川キャンパスにおける高大一体教育を図るための基盤として、仙川キャンパス第2期校舎建築計画の推進に力を注いで来ましたが、いよいよ工事に着手しました。また、校舎完成後の新しい高大一体教育プログラムの検討に入りました。
- 2) 成熟した音楽家の育成を課題とし、大学院教育の更なる充実に努めました。平成29年に開設した東京の大学院は順調に入学者を増やしており、特に修士修了後の教育内容の整備に注力しました。
- 3) 大学・高等学校は、このところ入学志願者数及び入学者数の減少が続いてきましたが、その対策として広報活動の強化を挙げ、広報・募集対策委員会を組織し取り組みをスタートしました。また、一昨年度の学校案内冊子に続き、懸案だったホームページがリニューアルされました。

6. 法人全体として

- 1) 安定した入学志願者と必要な入学者数の確保は、三部門に共通する、法人にとって最大の課題であり、各部門、今までに増して力を注いで取り組みました。
- 2) コンプライアンス経営を推進し、情報公開の促進に積極的に取り組みました。望ましいガバナンスの模索、再確認・再構築を課題とし、部門制を基に円滑な法人運営が進められるよう、部門による責任ある意思決定プロセスや管理システムの在り方を意識した運営を進めました。
- 3) 各部門が抱える課題に対し、法人がどのように責任を果たしていくのか、部門の主体性を尊重しながら法人に何ができるか、寄付金募集、広報の在り方等と合わせて検討してきました。
- 4) 10年間理事として豊富な経験と識見をもって学園経営を支えてくださった紘田英哉氏が本法人の理事を退任されました。長年のご尽力に心から感謝申し上げます。

(学校法人桐朋学園 理事長 河 原 勇 人)

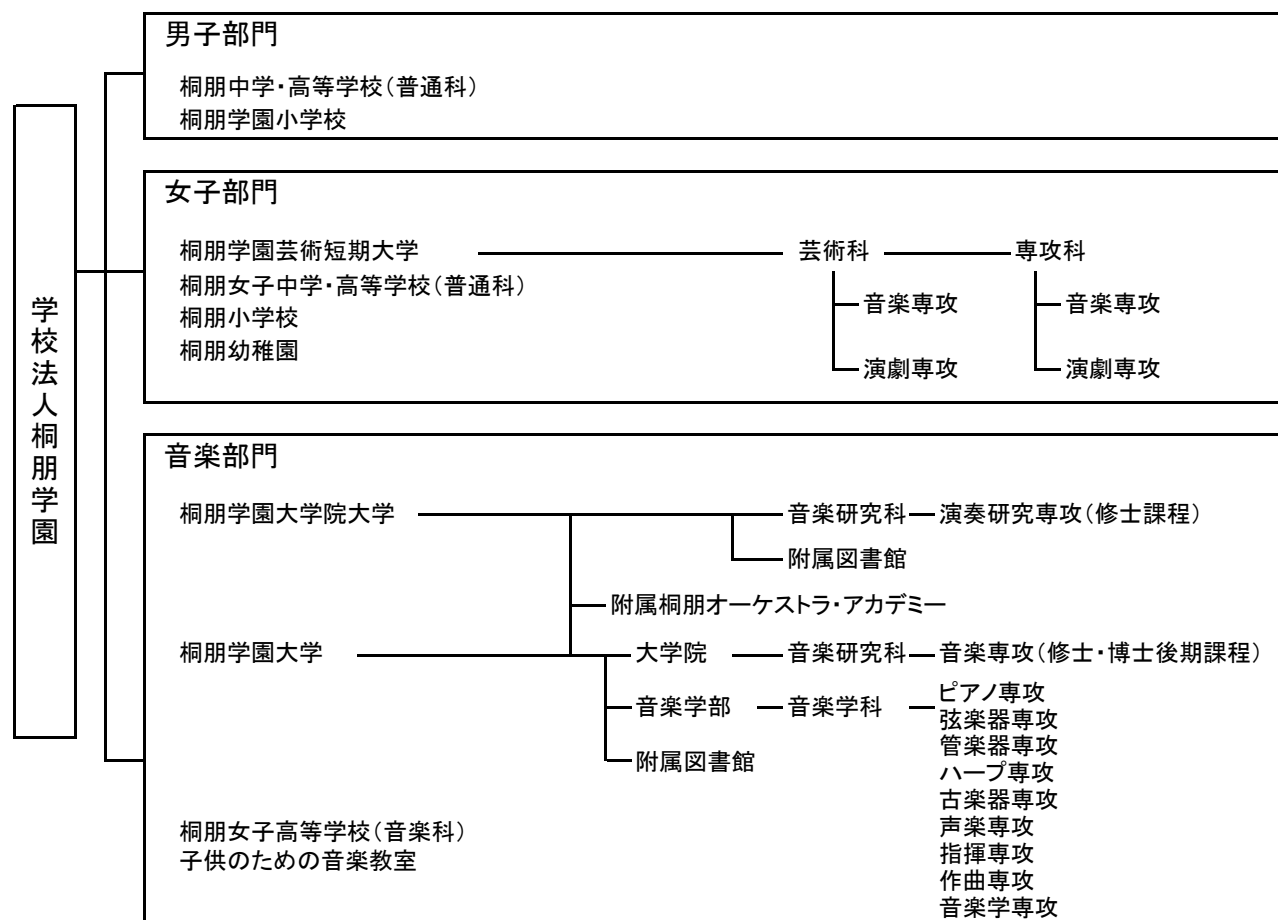
2 法人の概要

(1) 建学の精神・教育理念及び沿革

学校法人桐朋学園は、男子部門・女子部門・音楽部門の3つの部門で構成されている。3つの部門の教育の在り方や特色はそれぞれ異なる。しかし目指す教育は、いずれの部門も「一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲的な、自主的・創造的な人間の育成」である。桐朋学園とは、それぞれ特色ある教育を実践する3つの部門が互いに良い影響を及ぼし合って、一個の法人として成り立っている。今後もこのあり方を基本に据え、学園全体に大きな活力を生み出していく。

昭和15年11月7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年3月4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年4月1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年3月5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月25日東京都より認可)
昭和27年3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年2月1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成7年9月1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年5月1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

(2) 設置する学校



(3) 設置する学校の学生生徒等数の状況

(令和元年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	13	13	11	11	20	20
桐朋学園大学	大学院							
	音楽研究科修士課程	30	61	58	48	48	60	95
	音楽研究科博士後期課程	3	6	5	5	5	9	8
	音楽学部 音楽学科	180	187	186	181	159	720	682
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	215	205	122	122	240	242
桐朋高等学校	全日課程 普通科	350	500	496	439	318	1,050	961
桐朋女子高等学校	全日課程 普通科	350	182	181	177	164	1,050	553
	音楽科	100	55	53	53	50	300	157
桐朋中学校		300	1,174	945	481	265	900	788
桐朋女子中学校		300	369	267	243	155	900	490
桐朋学園小学校		80	559	454	113	71	480	432
桐朋小学校		80	370	287	118	72	480	432
桐朋幼稚園		26	98	94	26	26	78	78
総計		1,929	3,789	3,244	2,017	1,466	6,287	4,938

(4) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	1.05	1.10	1.05	1.00	1.00
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	—	0.86	1.47	1.49	1.42
	音楽学部 音楽学科	1.21	1.13	1.03	0.94	0.92
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	1.13	1.16	1.07	1.00	1.01
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.91	0.92	0.92	0.91	0.91
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.72	0.68	0.60	0.52	0.48
	音楽科	0.67	0.66	0.60	0.52	0.54
桐朋中学校		0.88	0.87	0.86	0.87	0.88
桐朋女子中学校		0.66	0.60	0.57	0.54	0.51
桐朋学園小学校		0.88	0.89	0.89	0.90	0.89
桐朋小学校		0.90	0.90	0.89	0.90	0.90
桐朋幼稚園		1.00	0.82	1.00	1.00	0.98

(5) 役員の概要

理事 定数 13～15人 現員 13人 監事 定数 2～4人 現員 2人

(令和2年3月31日現在)

	氏名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非常勤 の別	主な現職等
理事	河原 勇人	H22.4.1 (H30.4.1)	常勤	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
理事	片岡 哲郎	H21.4.1 (H31.4.1)	常勤	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
理事	今野 淳一	H31.4.1	常勤	桐朋女子中学・高等学校長
理事	梅津 時比古	H25.4.1 (H31.4.1)	常勤	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学学長
理事	鈴木 正義	H29.4.1 (H31.4.1)	常勤	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
理事	高橋 博之	H28.4.1 (H31.4.1)	常勤	桐朋学園女子部門事務職員
理事	長瀬 浩平	H31.4.1	常勤	桐朋学園大学教授
理事	矢島 基美	H28.4.1 (H31.4.1)	非常勤	上智大学教授
理事	給田 英哉	H22.4.1 (H29.4.1)	非常勤	公立大学法人国際教養大学理事
理事	薄井 紀子	H28.4.1 (H31.4.1)	非常勤	東京慈恵会医科大学客員教授
理事	羽原 清雅	H20.11.1 (H31.4.1)	非常勤	新宿区教育委員
理事	垣添 忠生	H22.4.1 (H31.4.1)	非常勤	公益財団法人日本対がん協会会長
理事	関口 榮司	H30.4.1	非常勤	学校法人保隣教育財団理事
監事	伊藤 昌毅	H28.4.1 (H31.4.1)	非常勤	弁護士
監事	関口 恭三	H30.4.1	非常勤	公認会計士

(6) 評議員の概要

定数 34～37人 *は理事兼任者13人
現員 34人

(令和2年3月31日現在)

氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等
後藤 恭子	H30. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園小学校教諭
村野 英治	H31. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
原口 大助	H29. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋中学・高等学校教諭
三輪 香織	H30. 4. 1	桐朋学園男子部門総務課長
佐久間 彩子	H28. 4. 1	桐朋小学校教諭
中野 浄	H31. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校教諭
安宅 りさ子	H23. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園芸術短期大学教授
大槻 清美	H28. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園女子部門総務課長兼経理課長
合田 香	H31. 4. 1	桐朋学園大学専任講師
関田 英二	H25. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園大学教授
小森谷 泉	H27. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園大学教授
鶴岡 純子	H31. 4. 1	桐朋学園音楽部門図書館事務部長
津澤 絵理	H31. 4. 1	桐朋学園法人本部事務職員
生江 隆之	H25. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋中学・高等学校同窓会長
橋田 伸子	H30. 6. 23 (H31. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校同窓会長
二宮 和子	H22. 4. 20 (H31. 4. 1)	桐朋学園音楽部門同窓会長
* 片岡 哲郎	H21. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 今野 淳一	H31. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校長
* 梅津 時比古	H25. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学学長
* 鈴木 正義	H29. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 高橋 博之	H28. 4. 1 (H31. 4. 1)	桐朋学園女子部門事務職員
* 長瀬 浩平	H31. 4. 1	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
* 河原 勇人	H22. 4. 1 (H30. 4. 1)	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 羽原 清雅	H20. 11. 1 (H31. 4. 1)	新宿区教育委員
* 垣添 忠生	H22. 4. 1 (H31. 4. 1)	公益財団法人日本対がん協会会長
* 関口 榮司	H30. 4. 1	学校法人保隣教育財団理事
* 給田 英哉	H22. 4. 1 (H29. 4. 1)	公立大学法人国際教養大学理事
* 矢島 基美	H28. 4. 1 (H31. 4. 1)	上智大学教授
* 薄井 紀子	H28. 4. 1 (H31. 4. 1)	東京慈恵会医科大学客員教授
秋山 仁志	H31. 4. 1	桐朋中学・高等学校PTA会長、日本歯科大学附属病院総合診療科教授
小林 純	H29. 5. 24 (H31. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、RE FACTORY株式会社代表取締役
木下 晶	H29. 4. 1	富山県立芸術文化協会副会長、富山県立大学参与
上田 洋子	H27. 4. 1 (H30. 4. 1)	相模原市教育委員会 学校教育部 青少年相談センター臨床心理士、公認心理師
首藤 波津子	H29. 4. 1	NPO法人スポーツネットワークジャパン理事長

(7) 教職員の概要

(令和2年3月31日現在)

部門	区分 学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	47	11	12	12
	桐朋中学校	34	7	19	9
	桐朋学園小学校	21	0	6	10
	計	102	* 1 18	37	31
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	22	8	140	4
	桐朋女子高等学校普通科	43	13	32	13
	桐朋女子中学校	33	2	24	7
	桐朋小学校	22	2	8	5
	桐朋幼稚園	4	0	1	0
	計	* 2 124	25	205	29
音楽部門	桐朋学園大学院大学	5	5	5	0
	桐朋学園大学・大学院	52	20	378	48
	桐朋女子高等学校音楽科	9	5	25	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	387	9
	計	66	30	* 3 795	59
法人本部		計	3		1
総計		292	76	1,037	120

* 1 外国語指導助手(ALT)を含む。

* 2 特任教授、代替教員を含む。

* 3 非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

3. 事業の概要

(1) 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

① 男子部門

ア 2019年度の事業の概要

2021年度大学入試から導入される新しい大学入学共通テストにおいて、英語4技能を重視する観点から、民間の英語認定試験の成績を活用するという文科省の方針を受けて、受験生を抱える全国の高等学校も、試験を実施する各大学側も様々な矛盾や問題点を感じながら懸命に対応を進めて来ました。しかし昨年11月、まさに水際で、外部認定試験活用が見送りとなりました。高校生の混乱と怒りが大きな声となって表明されるなかで、事態はさらに、大学入試改革のもう一つの目玉でもあった国語・数学での記述式問題の導入も、見送るところまで一気に進みました。

高大接続一体化改革の中で、児童生徒一人ひとりの多様な個性を尊重し、その主体的な学びを促しつつ、協働性に満ちた社会の実現を目指すといった教育の理想が語られる一方で、グローバル化に対応する“国際規格の力”を共通の素養とする若者の育成こそが、国際社会に置いて行かれないためには最優先の課題だとする大人社会の危機感が、たとえば英語外部認定試験の活用を進めてきました。教育の主人公はいったい誰なのか、改めてそのことを考え直さなければなりません。

私たちは今、2021年度入学生から実施される中学の新学習指導要領、及び翌2022年度から実施される高校新学習指導要領への対応を念頭に置いた、中高の新しいカリキュラムの策定作業を進めています。これまでの議論のなかで明確になった教育課程構築についての私たちの想いは、①文理を強く意識した偏った教科の学習でなく、様々な教科を学ぶ幅広い学習体験を大切にする。②学問の基盤となる基礎学力の構築。知識に加えて、言語技能・論理的・多面的思考や問題解決力、創造性も大切にする。③生徒たちが自ら学んでいく姿勢の涵養をお題目に終わらせることなく、確実に行う。④生徒たちが難関国公立大学を志望した場合、そこへ進路を切り開くことのできる学力をつける。⑤「話し合い」を通しての学びの体験を重視する（民主的社会的担い手としての成長を期待して）という5点に整理されました。「今の時代だからこそ見失ってはならない教育の本質を、改めて全員で共有する、そんな機会にしなければならない」という全教職員の思いを、カリキュラムという形でどのように示していくか、この課題は、2020年度へと引き継がれていきます。

小・中・高入試における応募者の安定的な確保という課題も、このところ強く意識されております。小学校入試は応募者わずかに増、中学校と高校は昨年からわずかに減少したとはいえ、全体的にはほぼ前年並みの応募者を確保できたと思っています。なお、中学校と高校で、私たちが過去のデータから割り出した歩留まり率を大幅に上回る入学者を迎えることになりました。

とりわけ、過去3年、39%、33.3%、37.9%と変化してきた高校入試の歩留まり率が、2020年度入試では実に43%という数字になったことは予想外であり、早急に分析を進めたいと思っています。3月末に集計された2020年度大学入試の結果、74期現役生の合格体験率は56%と、ほぼ前年並みの数字となりましたが、現役進学率は42%と、前年を7ポイント下回りました。一月のセンター試験では特に文系の受験者で上位層がかなり薄く、理系は最上位こそ一定数おりましたがその下の層がやはり薄く、そこでの切り替えもできぬまま入試本番に臨んだ生徒は、結果として第一志望校への合格を果たすことができなかった、そんなケースが多かったようです。

来年に向けて、新高3の75期生を一年かけてどう鍛え、どうサポートするかという具体的なアイディアを、早急に実行に移していくとともに、中学入試改革後に入学した76期生（この4月から高2）以下の生徒たちの学力分析を進めながら、新カリキュラムの検討にどのような工夫をはかるかという2点が、2020年度の課題であります。

◆基本方針

- ・ 桐朋がこれまで一貫して取り組んできた「学びの主体性を育てる教育」のさらなる充実をめざすとともに、新学習指導要領に対応しつつ、確かな学力に裏打ちされた豊かな人間性を育てることを目的とする、小・中・高の新教育課程の策定を進め、具体化を図りたい。
- ・ 中学の入試改革から4年が経過し、力のある受験生の確保という点では一定の成果が挙がっている。しかし一方で、広報活動は教員の負担も大きく、これ以上の展開は難しいという実情もある。教育内容の充実こそが広報上の最大の力点であり、そのための活力を削ぐことのないように、広報の体制を見直すなどして負担を軽減する工夫をしたい。
- ・ 新校舎の定期的な検査・補修など、維持管理体制を確立させると同時に、支出削減への取り組みを継続させる。また、築30年を経た中高体育館・小学校北館の計画的な改修を進め、今後も施設設備の機能向上を図りたい。
- ・ 学費改定と補助金、高校クラス定員減計画、校舎維持管理費、新たな人事計画など、諸条件を加えた第60次中期計画試算表を作成して収支分析および収支係数改善に努め、財務の安定を保ちたい。また、学校債廃止と寄付金について具体的な検討を進める。

イ 2019年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋中学校・高等学校

事業名 教育課程の検討

概要

2014年度より教育検討委員会において桐朋中高生の現状分析と問題点の整理、解決策の提案、中学生への効果的なアプローチ等について検討し、2018年度は教育課程委員会において、魅力に富んだ教育課程の作成に向けた研修会を実施した。これらを基に、中学・高校の新教育課程作成に向けた検討を具体化し、本校の新教育課程を決定するとともに、教育内容の充実にに向けた取組を行う。

進捗状況等

- ・ 中高教務主任・教育課程委員会での検討に加え、各教科での詳細な検討を進めた。特に、高校社会科における必修科目の置き方、現行の週授業時間数35を今後も維持するのか、働き方改革に伴う疲労感、多忙感の軽減や、放課後に生徒と交流できる時間のゆとりの確保という教員側での視点、時間的負担の軽減、クラブ等の活動時間の確保など、生徒側の視点から、水曜日の7時間目を取りやめ、週時間数を34とするかなどについて、夏期研修の機会を含め、さまざまに検討した。
- ・ 新教育課程での高校LHRの時間減に向け、LHRで必要となる時間数の確認や、高校における新教育課程移行期間の対応などについても検討し、2020年度の早い時期に、最終的な確認を取り、学内で決定できるよう、準備を進めている。また、新教育課程の枠組み決定後に、生徒がよりよく学習に取り組めるように、授業などでの教科指導の工夫に向けた検討をいっそう進める予定である。

事業名 生徒の大学入試へ向けての取組のサポート

概要

2021年度大学入試からのさまざまな改革（大学入試共通テストの実施、英語の4技能に関する資格・検定試験、調査書・ポートフォリオの活用）に向けた準備を進めていく。

進捗状況等

2021年度大学入試からのさまざまな改革への対応について、学内で検討を進めた。特に、英語の4技能に関する資格・検定試験については、本校生にとって不利益が生じないように、英語科・進路指導部主任が精力的に検討を進め、具体的な対応を学内で決定していたにもかかわらず、文部科学省の判断で延期となった。大学入学共通テストでの出題傾向の変更、調査書・ポートフォリオの活用については、今年度の検討・分析を踏まえ、2020年度にさまざまに取り組む予定である。

事業名 進路指導企画の充実

概要

2018年度に年間10回実施した進路企画「大学で研究してみませんか」のように、卒業生のサポートのもと、生徒が大学や研究施設を訪れ、研究を直に体験するような機会を提供していく。

進捗状況等

- ・ 「大学で研究してみませんか」と題する進路企画を12回実施し、延べにして250名あまりの生徒が参加した。内容は、卒業生のサポートのもと、生徒が大学や研究施設を訪れ、研究を直に体験するもので、参加した生徒は、研究の奥深さや施設の充実ぶりに大いに刺激を受けていた。
- ・ 2月には、本校卒業で、大学医学部の1年～5年に在籍している67期～73期卒業生13名を招き、それぞれの大学の特色や中高時の勉強方法などについて医学部志望の現役生へのアドバイスや、現役医師から「診療における頭の使い方」をテーマにした特別講義が行われた「医学部生との集い」を実施した。今回は、桐朋女子との合同企画で、女子中の生徒、OGの方の参加もあった。参加した生徒には、後日、医学部生作成で、合格・不合格体験記、各教科の学習法をまとめた「医学部受験対策資料」冊子が配布され、生徒は大いに刺激を受け、進学への意欲が高まったようだ。今後も、卒業生の力を借りて、こうした催しを実施する予定である。

事業名 国際交流

概要

イギリスのHarrow Schoolで、桐朋生だけを対象としたサマースクールを実施する。

進捗状況等

36名がこのサマースクールに参加した。

事業名 広報活動の充実

概要

- ・ 広報担当者の体制を改め、桐朋の魅力の発信に取り組んでいく。
- ・ 大学入試改革への不安などから大学付属校の人気が高く、本校にとってはやや苦しい状況ではあるが、私立授業料実質無償化の追い風もあり、今後も学校説明会を中心とした広報活動に工夫を凝らし、応募状況の改善に取り組む。

進捗状況等

- ・ ホームページの活用のいっそうの充実、改訂してから2年が経過した学校案内冊子の部分改訂などを行うとともに、広報担当者の役割を見直し、外部入試相談会などでは広報委員だけでなく、多くの教員が参加するようにした。
- ・ 中学の出願状況は、2月1日が411名(昨年度+18名)、2月2日が674名(昨年度+42名)であった。1日目の応募者が増加し、増えたのは力のある受験生であるとの情報も得ている。中学の学校説明会は全6回ともすぐに予約が一杯になった。本校の説明会に関心を持って下さる方にできるだけ多く参加してもらえよう、次年度は、収容人数を増やすことを中心としながらさらなる工夫を模索していく。高校については、246名(昨年度+10名)となった。大学入試改革への不安などから大学付属校の人気が高く、本校にとっては厳しい結果となった。今後も、学校説明会を中心とした広報活動に工夫を凝らし、応募状況の改善に取り組んでいく。

○桐朋学園小学校

事業名 EC指導内容の精査

概要

低学年から英語の学習を重ねた子どもたちがどのような力をつけて中学校に入学するかを把握し、中学校英語科と連携して指導内容を精査していく

進捗状況等

全学年でECの授業を開始して2年目となる2019年度は、2020年度から講師2人体制から専任教員が授業を担当することを見越し、カリキュラムの訂正と使用テキストについて協議し、決定した。

事業名 広報活動の充実

概要

学校説明会等で使う学校紹介動画を新しいものに変え、また子どもたちの学校生活をイラストで伝えるパンフレットを作成し、広報活動の更なる充実を図る。

進捗状況等

学校説明会では、例年通り卒業生の話を組み入れ、紹介動画を使用して、来校者の理解を深めるように努めた。併せて、HPの改善、充実を図る努力をした。また、前年に続き受検該当年齢の幼児を対象とした学校体験日を設け、学校の理解を深める機会となるよう努めた。

○事務部（管理運営）

事業名 今後の校舎修繕費の想定

概要

- ・ 既存旧校舎の適切な維持管理

進捗状況等

新校舎建築時にPM業務を委託した山下設計に依頼し、前回建て直した新校舎の今後の維持・修繕計画の確認と、前回建て直さなかった校舎（すでに、築30年を超えている）の今後の修繕ならびに建替についての考え方を提示していただいた。そのアドバイスを基に、次年度以降、どこまでの費用をかけて既存旧校舎の耐久性ならびに修繕の必要性に関する診断を実施するかを検討を進めて行くことになる。

事業名 事務部門における人事と業務見直し

概要

- ・ 事務部門における適正な人員配置の再検討を行う。
- ・ 仕事がよりスムーズに行えるように、事務部各課の業務の見直しと整理を行う。

進捗状況等

- ・ 再任用職員の退職に伴い、新任職員の採用人事を実施した。
- ・ 今後、職員数を増員することがなければ、この採用人事以降しばらくの間、採用人事は実施されることがないことが予想されているので、この採用人事と前年度の規程集改定の機会を合わせて、事務部内各課間の業務の整理、統合を検討してきた。各課の人数配置は今までと変わらずとなった。
- ・ 前年度からHPに関わる業務の一部を総務課でも取り扱うようになった。今まで、事務部でしか受け取ることができなかった各種申請書の一部を、HP上からダウンロードできるような体制を検討した。生徒・保護者との関わり方を整理し、事務部を含めた双方にとって申請処理がより一層スムーズに進められるようになることが期待される。

事業名 省エネ

概要

- ・ 各種機器・設備の使用方法や使用に関する取り決めの確認

進捗状況等

- ・ 教職員の省エネに対する意識付けはもちろんのこと、児童・生徒に対する意識付けも極めて重要であると考え、今年度は特に高校生徒会の協力を得て、省エネについて生徒に考えてもらえるような活動を行ってもらった。ただし、その活動自体が、生徒全体の意識までには十分に広がったとは言えない状態ではあった。
- ・ 元々の目標の中には入っていなかったが、今年度省エネ診断を実施した。この診断の結果を元に、省エネ機器の導入・更新を実施していくと補助金給付の対象となる可能性が高いので、優先順位をつけて、来年度以降取り組んでいくことになる。

② 女子部門

ア 2019年度の事業の概要

2019年度事業計画の中で女子部門が最優先で取り組んだことは、これまでと変わらず、「入学志願者の安定的確保」でした。中でも最重要課題は、中学入学者の確保です。

2018年度は中学入試を若干改変したので、その翌年にあたる2019年度は大きな変更はせずに臨みました。頻繁に変えるのを避けることと、今の建付けの入試で特長がよく現れているという思いがあったからです。説明会への参加状況から志願者が劇的に増えることはない予想され、何とか目標の160名を確保したいという思いがある一方、ここで合格を安売りしてしまうとまた塾の評価が下がり、翌年以降集まらないという思いもあり、二律背反の思いを抱えながらの入試でした。結果、ある程度の不合格者を出し、祈るような気持ちで手続きを待ちました。論理的思考力&発想力入試の歩留まりがよく、入学者は昨年より2名増えたものの、今年も目標の160名にはあと一步届きませんでした。教育面では、高校1年生全員にタブレット端末を持たせ、校内で自由に活用させる、ICT元年となりました。数年かけて準備を進めてきたものの、初期トラブルには見舞われました。が、それも何とか乗り越え、生徒はタブレット端末をツールの一つとして活用し始めています。

短大部は、「認定専攻科」が2年目となり、学位申請の年を迎えました。7月に実技試験を録画し提出、秋に面接試験を受験し、多くの学生が合格をいただきました。3月になって単位数不足を学位授与機構から指摘され、合格者全員に学位が授与されなかったのは残念ですが、該当する学生については2020年度でフォローする体制を整えています。学生募集の点では、音楽専攻と演劇専攻それぞれの小まめな努力の積み重ねで、芸術科1年の定員120名を充足することができました。

初等部においては、幼稚園の3年保育が2年目に入りました。同じ4歳児でも、1年目と2年目では大きく異なります。研究者も交えながら、新たな保育を進めています。小学校では、2020年度から始まる英語教育について詳細をまとめ、総合的な学習の時間や社会の授業と合わせて「地球市民の時間」として構成し、スタートすることとしました。

イ 2019年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園芸術短期大学

事業名 入学志願者の安定的確保

概要

劇上演実習、演奏会、オープンキャンパス等の内容をより充実させ、安定的な学生確保へ向けての努力を続ける。特に音楽専攻については、これまで実施してきた志願者増のための様々な取り組みを改めて検証し、確実な定員確保につながるよう強化・改善を図る。

進捗状況等

2020年度芸術科（本科）の入学者は演劇専攻が80名（学則定員70）、音楽専攻が40名（学則定員50）、専攻科の入学者は演劇専攻が19名、音楽専攻が14名となった。短大全体としては辛うじて学則定員を確保できたものの、芸術科音楽専攻の入学者は3年連続して定員を満たしておらず、2021年度入試へ向けて大きな課題を残す結果となっている。

事業名 学位取得を目指す学生への支援

概要

2018年度から出発した学位授与機構における認定専攻科の新教育課程が完成する。そこで、まずは「学士」の学位取得を目指す学生の「学位審査申請」を全力で指導及びサポートを行っていく。

進捗状況等

「学位審査申請」に向け、教職員が全力で指導及びサポートを行った結果、学習成果・試験の審査に置いては、演劇専攻では17名、音楽専攻では14名の学生が審査に臨み、音楽専攻の2名を除き計29名が「可」という成果を得ることができた。

しかし、学位授与機構と本学との「教養科目」の修得単位の取り扱いについて、重大な相違があることが判明し、機構と協議・交渉を重ねたものの、結果として「学位」を取得できた学生は演劇専攻が8名、音楽専攻が9名の計17名という数字に留まった。

「不可」となった学生には、学生それぞれの希望に応じて、半期あるいは1年後には確実に学位取得が可能となる救済策を講じたが、2020年度の「学位審査申請」においてはこのようなことが起きぬよう、機構とも緊密に連絡を取りながら対処していく。

事業名 認証評価への対応

概要

短期大学基準協会による認証評価(第3サイクル)を2020年度に控え、その準備を整える。

進捗状況等

2020年度に控えている認証評価第3サイクルの実地調査へ向けて、その必要な準備を整えることが課題であるが、IR委員会（大学経営を支える調査・分析機能とそのため組織）を短大運営委員会内に位置づけるなど、認証評価実施年度へ向けての準備を進めている。

事業名 大学間共同事業、アウトリーチ活動等の充実

概要

演劇専攻は東京演劇大学連盟（演大連）の主幹校として、本年9月に池袋・東京芸術劇場で開催予定の演大連加盟5大学による共同制作事業の準備を進める。また、2019年10月に中国・北京で開催予定のWTEA（世界演劇大学連合）主催の世界学生演劇祭に参加することを決定した。音楽専攻は地元の調布市をはじめ、福島県南会津町、兵庫県加東市で実施してきたアウトリーチ活動や連携事業の一層の充実を図る。

進捗状況等

2019年度の演劇専攻においては、東京演劇大学連盟の主幹校として、昨年9月には池袋・東京芸術劇場において加盟5大学による共同制作「ファザー・ファッカー」（原作・内田春菊）の公演を無事に実現し、その責任を果たした。

また、2019年10月に中国・北京で開催されたWTEA（世界演劇大学連合）主催による世界学生演劇祭に「夏の夜の夢」（作・W.シェイクスピア）をもって参加し好評を博している。

音楽専攻においては、2018年度に引き続き、地元の調布市は勿論のこと、福島県南会津町でのアウトリーチ活動、兵庫県加東市「音楽の日・コンサート」等々の連携事業が好評の内に終了した。

○桐朋女子中学校・高等学校普通科

事業名 入学志願者の安定的確保

概要

中学においては、2019年度入試の際、新しい試験の設置、日程の変更など大きな改革を行ったので、2020年度はこのまま継続することを基本に据える。口頭試問においては、準備を授業形式に限定し、かつその時間と試問の時間をそれぞれ延ばし、受験生が丁寧に準備したものをじっくり見ることとする。

進捗状況等

2020年度の中学1年生は157名でスタートすることとなった。目標である160名には3名及ばなかったものの、昨年より2名増加した。今回は例年に比べ合格者を若干絞込んだため、手続きの状況が心配であった。中学は全部で5種類の入試を行ったが、志願者が増えた入試と減った入試、手続き率が例年より良かった入試など、様々である。現在の女子中高の立ち位置では、出願者数や手続き率は、入試の内容や日程といった本校固有のファクターだけでなく、他校との併願関係にも依存する。入試状況を分析し、特徴をつかみ、合わせて他校の動向も見据えながら、次年度の広報につなげていきたいと考えている。

事業名 進路指導の充実

概要

入学志願者の安定的な確保のためには、学校の魅力向上が不可欠。進学指導の充実、生徒の問題意識を高める、自律を促す、文化祭での研究発表、外部コンクールなどへの積極的な参加など、多くの点で生徒を刺激し、挑戦させていく。

進捗状況等

進学指導のための環境づくりとして、短大部の協力を得て、高2高3の生徒のために短大図書館を19時30分まで自習スペースとして提供していただいた。利用する生徒の数は日によって差があるが、常時利用している生徒もあり、有効だったと考えている。

進路の状況については、AO入試や推薦入試といった一般入試以外の入試で進学を決めた生徒が、昨年に引き続き5割を超えた。そこで合格を勝ち取れるよう、志望理由書などの添削にあたる進路指導アドバイザーを増員し、一人ひとりに細やかに対応した結果でもある。大学がそのような入試形態に今まで以上の定員をシフトしている影響もあり、この傾向はしばらく続くと予想している。提携関係を結んだ大学とも、話し合いを重ねている。

事業名 学習面検討

概要

新教育課程委員会が職員会議で提案した内容は、高校の新学習指導要領実施に際しての教育課程表のみならず、そのための環境作りも含まれている。生活指導に関すること（徹底と対応方針の統一、携帯電話スマホの取り扱いなど）、学習活動に関すること（教科横断型授業の設置、言語技術の配当学年の変更、成績伝達など）進路指導に関すること（外部模試と授業との親和性）、ICT教育に関すること（タブレット導入）など、多岐にわたる。これらが各委員会に投げかけられ、早速検討が始まっている。校長からも生徒の自治能力、自律力の強化などの検討を要請した。これらの検討を進め、遅くとも年内には結論を出す。

進捗状況等

2021年度全面実施の中学の新学習指導要領と、2022年度から学年進行で実施される高校の新学習指導要領に関して、女子部門中高でどのような教育課程を編纂するか、議論が続いている。中心になるのは中学の学習に関する部分である。2016年度より導入した言語技術教育については、多くの教科に今まで以上に「書くこと」「言語活動」が要請されている新しい学習指導要領のもとでは授業としては設置せず、各教科で意識しながら進めていくこととした。「書くこと」については、一部教科では2020年度から先行実施する予定である。探究的な学習を進める講座についても、設置する方向である。

2019年度より、高校1年生においてタブレット端末の活用を始めた。活用の場面は、授業だけでなく委員会やクラブ活動、更に家に持ち帰って課題を進めるために使うなど、幅広く可能とした。ICT元年と言ってもよい年であり。当初は初期トラブルにも見舞われたが、それを乗り越え、生徒はツールの一つとして、文房具をカバンから取り出すような意識で使っている。

○桐朋幼稚園・桐朋小学校

事業名 入学志願者の安定的確保

概要

様々な活動や授業、環境を充実させ、魅力的な園、学校を創り出し、志願者の増加に繋げていく。幼稚園では、2019年1月より、保育見学会を開始し、2020年度志願者増加を目指して取り組みを始めている。小学校では、2018年度にはじめて行った学校体験会に参加された多くの方に受験をしていただいた。2019年度は、学校体験会の参加者を大幅に増やすよう取り組む。

進捗状況等

幼稚園の保育見学会は募集を開始するとすぐに満席となる状況が続いており、小学校の学校体験会も多くの参加者を得た。さらに活動や授業、環境を充実を図り、志願者の増加に繋げていく。幼稚園では、保育見学会の充実とともに、園説明会も募集人数を増やす、小学校では、学校体験会の募集人数を大幅に増やすことを検討する。

事業名 幼稚園3歳児保育の研究

概要

2018年度より開始した幼稚園の3年、3歳児保育について、2018年度入園の3歳児が卒園する2020年度まで継続して実践研究を進める課題と位置づけ、継続して学習を進めていく。

進捗状況等

幼稚園の3年、3歳児保育について、2018年度入園の3歳児が卒園する2020年度まで継続して実践研究をすすめる課題と位置づけている。2019年度初等部研究会では、幼稚園の共同研究者（大学教員）を講師として招き、エリクソンの理論を中心として実践と結びつけて学習し、桐朋幼稚園の特色ある保育を学び合った。

事業名 小学校教育内容の検討

概要

2020年度に向けて、桐朋小学校らしい外国語活動、国際理解教育、多文化共生教育を検討してきた。2019年度は4年生の改革を進め、2020年度からは3年生～6年生の授業時間数を増加し、複数の非常勤講師の採用を行い、授業を進める。また、プログラミング教育についても検討を進めていく。

進捗状況等

2020年度に向けて、桐朋小学校らしい外国語活動、国際理解教育、多文化共生教育を検討し、「地球市民の時間」を創設することになった。子どもたちがこれからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人に育む。3、4年生の授業では、ICU（国際基督教大学）の留学生を招いて授業を試みた。3年生～6年生では、授業時間数が増加となる。

○事務局（管理運営）

事業名 中期計画の策定と実行

概要

これまで明確には定められていなかった女子部門事務局としての中期計画の策定を行い、実行する。

進捗状況等

私立学校法改正への対応のために、2019年度内に急遽策定した中期計画は、検討の時間もなかったことから、不十分な点が多いと考えられる。見直しを図りたい。また、その中期計画に基づいて単年度ごとの事業計画を立て、実行に移していきたいと考えている。

③ 音楽部門

ア 2019年度の事業の概要

第2期工事プロジェクト

音楽部門は平成30年度、「原点へ、そして明日へ」という標語を掲げました。現在進行中の仙川校舎第2期工事は、この標語に表された教育理念の実現に不可欠なものです。それは、この工事が竣工することによって、調布の校舎で行われている大学の授業が仙川で行われるようになり、かつて仙川校舎で行われていた高校―大学7年間の教育を、連続した一体のものとして運営する形を取り戻すことができ、そして、さらにその先に進むことができるからです。部門における平成31年（令和元年）度の事業の中で一番大きく、重要なものは、この第2期工事プロジェクトですが、基本設計から実施設計へ、そして、年度末には起工式を終え、着工へと順調に進んできております。

学生生徒の確保

幸いなことに、平成31年度も東京の大学院は順調に運営されており、学生も予定通りに集まっています。来年度からは修士課程に、「作曲」「音楽学」の2専攻を増設し、さらに発展していくものと思います。

当初から問題意識を持っていた高校と大学の生徒数、学生数についてはまだまだ改善の余地があると言わざるを得ず、今年度決算においても、学生生徒数の減少が前年度の学生生徒納付金収入との大きな差異を生じさせてしまいました。第2期工事の竣工と同時に、高大が一体となった教育が強化されることにより、高校と大学学部がより桐朋らしい魅力的なものになると考えており、学生生徒の確保にもプラスになると考えております。

平成31年度に立ち上がった「広報・募集対策委員会」は、まだ十分には機能しておりませんが、「広報」にせよ「募集対策」にせよ、より力を注ぐべき事柄との認識を強くしております。

音楽教室の運営

音楽教室は音楽部門の母体であり、その運営が高校や大学、さらには大学院の運営にとってとても重要です。その収支については、教室によってはなかなか大きな改善が見られず、一朝一夕には改善しない問題と改めて認識しております。まずは、各教室の運営実態を部門全体で把握することから始め、教室との関わりの有無にかかわらず、部門の教職員全員が音楽教室の運営を把握しコミットできるようにすることから始めました。

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症は、年度末の色々な学校運営に影響を及ぼしました。幸い、年度末の一般入試は無事に終わることができ、高校、大学、大学院の主な授業もほとんど終わっていたのですが、高校の特別活動やいくつかの演奏会、卒業式などを取り止めることになりました。さらには、音楽教室を休校にせざるを得なくなるなど、学校の運営に支障を来しました。今年度決算の数字にはそれほど表れてはいないのですが、次年度にはもっと大きな影響が出てしまうと懸念しております。

課題と取り組みの進捗状況

209年度に音楽部門が行った学校運営上の事業のうち、特記すべき事業の要点は「2019年度の課題と取り組み」において表明されています。それらは、「第2期工事プロジェクト」「大学院のさらなる充実」「高大一体教育の強化」「外国人留学生受け入れ整備」「広報の強化」「音楽教室の収支改善」「短大との協力」などの項目で示されましたが、いくつかは進展があり、いくつかはあまり進まず、またいくつかは手つかずに終わりました。以下にその項目ごとに進捗状況を報告します。

イ 2019年度の主な事業計画及びその進捗状況

○仙川校舎建築

事業名 第2期工事プロジェクト

概要

実施設計から施工へと進む第2期工事を計画通りに進める。

進捗状況等

- 実施設計において、第1期工事校舎で特に問題になった防音・遮音性能の改善策を、施工業者の実験設備において実証実験をするなどして施工業者とともに検討し、課題を共有、対策を検討した。また、工費のコストコントロールを常に意識して実施設計の見直し検討をし、Value Engineering (VE) 検討を行った。
- 第2期工事が進んで行く際に影響を受けるであろう学校行事（文化祭、各種試験等）を検討し、工期に影響がないよう、それらを可能な限り調布校舎で行うこととし、工事を止めないようにした。

○桐朋学園大学と桐朋女子高等学校音楽科

事業名 高大一体教育強化

概要

高大一体の教育は、音楽部門の核である高校と大学の最も特徴的かつ重要なポイントである。第2期工事の完成後を見越して、新しい「高大一体教育プログラム」を発信すべく、竣工前から検討を進める。

進捗状況等

- ・ 教務委員会において、第2期工事校舎の完成後の時間割シミュレーションを行い、その問題点を検討しながら、新しい校舎に相応しい新しい教育プログラム（カリキュラム）の検討を開始した。

○桐朋学園大学

事業名 外国人留学生の受け入れ整備

概要

国外から桐朋で音楽を学びたいと志す学生を受け入れるために、制度を整える。

進捗状況等

- ・ 教務委員会において、第2期工事校舎の完成後の時間割シミュレーションを行い、その問題点を検討しながら、新しい校舎に相応しい新しい教育プログラム（カリキュラム）の検討を開始した。

事業名 短大との協力

概要

短大との連携授業が行われていたころのように、短大と緊密な連絡を取り、様々なテーマを話し合い、共に協力してお互いにとってのwin-winの関係を築く。

進捗状況等

- ・ 両図書館の館長を含めた連絡会議が始められ、連携の形を模索することがスタートした。
- ・ 毎月行われている、教務関係者連絡会議もこれまで通り行われており、今後も様々な部署で協力、連携の動きが活発になることを期待している。

事業名 IRの設置

概要

Institutional Research (IR) の機能は、必須のものと考えており、その設置を行う。

進捗状況等

- ・ IRの機能が大学として必須のものであることは認識しているが、残念ながら今年度はまったく進まなかった。

○桐朋学園大学大学院

事業名 大学院のさらなる充実

概要

大学院は平成31年3月に初めて、修士課程の修了者を送り出した。開設当初から入学者も予定通りの人数を確保できており、今後、さらに教育内容を充実させて行き、大一院の連続した教育体制を整えていく。

進捗状況等

TA制度

- ・ 今年度からティーチング・アシスタント（TA）の制度を始めた。大学院生でTAとなった者は15名おり、20名の教員が授業でこれらのTAに業務を依頼し、延べ262回のTA活動が報告されている。1回の拘束時間は授業時間と同じ90分が主だが、中には1日5時間を超える拘束時間もあり、今後、点検・検討されるべきかと考える。
- ・ このTAが教育的にどういう効果があるのか、どういう改善点があるのかなどを検証して、改善する。

コースの新設

- ・ 新たに次年度から「作曲」「音楽学」の2専攻を新設することを決定した。

秋入学

- ・ 大学院では春と秋に入学が規定されており、志願者があることを想定して、入試の準備を行ったが、残念ながら志願者なしであった。

○桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室

事業名 音楽教室の収支改善

概要

音楽教室から高校・大学へ、という流れを点検し、改善する。

進捗状況等

- ・ 音楽教室から高校・大学へという流れの点検を行い、その問題点を洗い出すために、各教室からどのくらいの生徒が高校・大学に来る見込みなのか、受験生となり得る者の状況を調べた。
- ・ このような基礎的なデータを、翌年度以降も確実に把握し適切な進学指導に繋げる。

事業名 音楽教室の経営安定のための施策の検討

概要

赤字の教室運営を点検するとともに、音楽教室から高校・大学へという流れ以外の経営的な視点はないか摸索し、検討する。

進捗状況等

- ・ 収支状況が分かりやすく専任教職員に伝わるように、これまで各教室の「収支差額」のみを示してきた予算資料を、収入額と支出額をも示して、各教室がどのような資金規模で運営されていて、その上でのどのくらいの額の黒字、赤字なのかを把握できるように、表現方法を改めた。
- ・ 受験対象の学齢以外の生徒の受け入れの試みとして、水戸教室において大人の受講生を対象にした「特別コース」を試験的に始めた。そこで得られた知見を、他の教室にも広めたい。

○広報強化

事業名 広報組織の見直し

概要

広報活動を強化するため、組織の見直しを行う。

進捗状況等

- ・ 広報・募集対策委員会を立ち上げた。メンバー各自がその下にワーキングチームを編成できるようにし、実際の実務に当たる体制を取った。
- ・ 学校案内チームは活発に動き、学校案内を一新した。
- ・ 募集対策関連についてはあまり動かすことができず、翌年度の課題とする。

事業名 オープンキャンパスなどの検討

概要

生徒・学生確保のための方策の検討と実行

進捗状況等

- ・ 受験生に向けた学校の特色発信の充実を図るために、学校案内を一新できたが、残念ながら、オープンキャンパスや夏期・冬期講習会のコンテンツ等の点検・検討は、特に新しい動きはなく、次年度以降に取り組む。

○その他

事業名 自由闊達な意見交換の場

概要

「一見、役にたたなさそうなこと」「何の役にたつか、わからないこと」をも話し合う場がsomething newを発想し、innovationに繋がる。自由闊達に語り合える場を作り、日ごろから教育職員、事務職員が専任非専任の区別なく、意見交換や問題共有が可能となる空気、雰囲気、環境を作り出す。

進捗状況等

- ・ 「来るべき音委員会」（学長の私的諮問の会）の場は自由闊達にどんな話でも出し合う場であるが、実際には、外国人留学生受け入れに向けての議論が多くなり、当初期待したsomething newに繋がる話し合いはあまりできなかった。

事業名 問題の予防

概要

何か問題が起こってから、それに対応する対策を検討し動き始めるような傾向があったが、今年度からは、問題発生を予防することに力点をおきたい。

進捗状況等

- 新型コロナウイルス感染症がここまで大きな問題になることは、当初全く予測できなかった。感染が国内、特に東京圏で拡大の速度を増し、全国に緊急事態宣言が発出されて、全国のあらゆる学校が色々な準備や対応に追われることになった。
当初、「来るべき音委員会」において、オンラインによる遠隔地レッスンについても話題に上ったことがあった。その時には「いずれはそのようなこともできれば良い」程度に議論が終わってしまったが、もう少し実施に向けた検討を行い、実施に向けた問題点の洗い出しなどを行っておけば、いくらかでも今回のような事態に対応しやすかったのではないかと反省している。
今回、急遽、実施が迫られて準備しているレッスンや授業のオンライン活用のノウハウが、今後の学校運営に活かせるように検討したいと考えている。

○仙川キャンパスと富山キャンパス

事業名 2つのキャンパスの連携強化

概要

両キャンパスの運営情報を共有して、一体感を持つことができるように工夫する。

進捗状況等

- 両キャンパス会議において、どのような議論がなされているか、それぞれの議題メモを会議で示して、音楽部門としての一体感を強化しようと試みた。
- 催しも相互の交流にも図ろうとしたが、あまり実績は上がらなかった。

④ 法人本部

ア 2019年度の事業の概要

2019年度は、本法人のみならず、多くの学校法人にとって、節目の年となったのではないだろうか。

私立学校法の改正である。その内容に加え、過去、例のない、規模の大きなものであった。

役員の職務と責任の明確化、監事機能の強化、情報公開の充実、経営力強化のための支援等々、がその主な内容である。

2019年度は、本法人においても、理事会を構成する理事に若干の変更があった。これを支える法人本部事務局としては、改正私学法への対応とあわせ、果たすべき役割の大きさに緊張感を覚えずにはおられなかった。

しかも、法人本部事務局は、新たな陣容でこれに対応しなければならなかった。局長の交替である。

しかし、新たな人材として専任職員が1名加わり、実務的には従前にも増し、心強い体制になった。

この結果、法改正に遺漏なく対応することができた。また、理事会をはじめ法人が主宰する会議の運営にも特段の支障を来さずことなく、何とかその下支えができたのではないかと考えている。

イ 2019年度の主な事業計画及びその進捗状況

事業名 法人全体に関わる課題に取り組む各部門の支援

概要

- ・ 「必要な学生・生徒・児童数の確保」「一定の収支差額の確保」及び「健全な財務運営のための中長期財務計画の策定と着実な実行」という法人全体に関わる課題について、各部門の取組状況を確認する。
- ・ 寄付金募集、経費削減、人事交流、広報のあり方について、部門と連携して研究、検討を進める。
- ・ 部門制を基盤とする本法人のガバナンスについて再確認するとともに、内部監査のあり方を検討する。
- ・ 省エネ企画推進会議等を通じて、各部門及び法人全体のエネルギー使用量を把握するとともに、各部門の対応状況を確認する。
- ・ 障害者の雇用を推進するための施策について、部門と対応を協議する。

進捗状況等

- ・ 「必要な学生・生徒・児童数の確保」「一定の収支差額の確保」及び「健全な財務運営のための中長期財務計画の策定と着実な実行」について、理事勉強会及び法人運営審議会を通して、各部門の取組状況を確認した。
- ・ 寄付金募集について、法人が一元管理するシステムの構築は実現しなかったが、各部門がその本来の責任を果たすべく、従来以上に積極的に取り組むこととなった。広報については、理事長の主導により、広報業務に携わる関係者を三部門から集め、自由な意見交換を行う機会を持った。
- ・ 省エネ活動について、2019年度は新規の設備計画こそなかったが、各部門の不断の努力もあり、法人全体の使用量は対2018年度比△4.8%を達成した。

事業名 文教政策の見直し等本法人に関係する法改正への対応

概要

- ・ 文教政策の見直しや労働法その他本法人に関係する法改正に対し、各部門と協力して、適切に対応する。

進捗状況等

- ・ 働き方改革関連法の施行に伴う各部門の対応を理事勉強会において適宜確認し、情報交換を行った。
- ・ 私立学校法の改正に伴う寄附行為をはじめ法人諸規程の改正については、文部科学省主催の説明会はもちろん、外部のセミナーに積極的に参加し、役員の職務と責任の明確化、経営力の強化（中期的な計画の作成義務化）、情報公開の充実等、改正の趣旨及び内容の理解に努めた。
寄附行為については、文部科学省より2020年2月3日、変更の認可を受けた。また、評議員会の諮問を経るなど正規の手続きを経て、理事会において「役員報酬等支給規程」を制定、改正私学法施行日前の3月11日、最新の寄附行為と共にこれを公表した。

(2) 施設設備の取得

① 男子部門

○ 中高体育館・柔道場床板改修

- (1) 工事概要 安全対策工事
- (2) 工事費用 4,180,000円
- (3) 施工業者 (株) 正研グループ

○ PC教室PC更新

- (1) 工事概要 年次計画による定例工事
- (2) 工事費用 17,733,924円
- (3) 施工業者 ウチダエスコ(株)

○ CALL教室PC更新

- (1) 工事概要 年次計画による定例工事
- (2) 工事費用 18,640,476円
- (3) 施工業者 ウチダエスコ(株)

○ 井水ポンプ更新

- (1) 工事概要 劣化した井水ポンプの交換工事
- (2) 工事費用 3,960,000円
- (3) 施工業者 (株) アサノ大成基礎エンジニアリング

○ 小学校プール塗装工事

- (1) 工事概要 劣化したプール槽の改善工事
- (2) 工事費用 4,950,000円
- (3) 施工業者 (株) ベーシング

② 女子部門

○ 自然ひろば造成工事

- (1) 工事概要 長らく「自然ひろば」の用地として利用してきた借用隣地を返還することになった。これに伴い、新たに自然ひろばを造成した。
- (2) 工事費用 12,549,600円
- (3) 施工業者 株式会社 野崎造園
- (4) 工事期間 2019年3月15日～4月11日

○ 中高生徒タブレット端末導入のための環境整備

- (1) 工事概要 生徒一人一台のタブレット端末を利用した教育活動を開始するにあたり、LAN配線工事、無線アクセスポイント、充電保管庫の設置、管理ソフトの導入等を行った。併せて授業展開用、非常勤講師用にタブレット端末、ノートパソコンの拡充も行った。
- (2) 工事費用 19,829,376円
- (3) 施工業者 株式会社 内田洋行
- (4) 工事期間 2019年3月25日～2019年6月5日

○ 中高コンピュータ教室用 サーバー、パソコン更新

- (1) 工事概要 従前の機器が7年前に購入したもので、パソコンのOSもWindows7でサポート期限を迎えるため、機器の更新を行った。
- (2) 工事費用 11,454,345円
- (3) 施工業者 キャノンシステムアンドサポート株式会社
- (4) 工事期間 2019年8月6日～8月30日

○ 短大演劇第4実習室棟新築

- (1) 工事概要 上記自然ひろばと同様に、長らく借用地で利用していた実習室棟を解体したため、改めて第4実習室棟を新築した。
- (2) 工事費用 145,768,526円
- (3) 施工業者 芝建築設計事務所 三友建設株式会社
- (4) 工事期間 2019年3月27日～2020年3月30日

③ 音楽部門

○ 桐朋学園音楽部門仙川キャンパス第2期建築工事

- (1) 工事概要 平成27年度から始まった老朽化した校舎を段階的に取り壊して、日本で初の木造校舎を建築する計画。第2期工事は世界で初めてのCLT（最先端木材合板）を使った木造のホール、レッスン室、教室を建築する。2019年度は実施設計、敷地の解体工事を行った。
- (2) 建物概要 延床面積：約2,450㎡ 構造：地上3階建（木造、一部RC造）
- (3) 工事費用 2,120,000,000円
- (4) 設計・施工業者 前田建設・住友林業共同企業体 隈研吾建築都市設計事務所
- (5) 工事期間 2019年4月～2019年8月 基本設計
2019年6月～2019年12月 敷地解体工事
2020年1月～2020年3月 新校舎建築準備

(3) 学費及び補助金等

① 男子部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	進学科	建設資金	授業料 (月額)	施設拡充費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校	270,000	200,000	130,000	40,200	10,000	2,500	25,000
桐朋中学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000 *
桐朋学園小学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校	344,013,500
	桐朋中学校	222,709,900
	桐朋学園小学校	116,155,000
東京都私立高校授業料軽減助成金		42,181,800
東京都結核予防費補助金		105,965
東京都都内生就学促進補助金		1,111,000
その他の補助金		29,466,158
	合計	755,743,323

学園債 2019年4月～2020年3月までの受入額

桐朋高等学校	7,600,000
桐朋中学校	37,900,000
桐朋学園小学校	20,500,000
合計	66,000,000

② 女子部門

学費

(単位:円)

学校名			入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園 芸術 短期大学	芸術科	音楽専攻	420,000	170,000	1,090,000	80,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	330,000	170,000	975,000	70,000	32,000	110,000	35,000
	専攻科	音楽専攻	10,000		975,000	70,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	10,000		975,000	70,000	32,000	120,000	35,000

学 校 名	入学金 進学手続料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000 100,000	100,000	41,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	41,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	48,600	11,500	24,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	47,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金	
桐朋学園芸術短期大学	55,498,000
東京都経常費補助金	599,500,300
桐朋女子高等学校	307,155,200
桐朋女子中学校	175,265,400
桐朋小学校	106,304,100
桐朋幼稚園	10,775,600
東京都私立高校授業料軽減助成金(高校)	28,519,000
東京都結核予防費補助金(短大・高校)	92,887
東京都都内生就学促進補助金(高校)	327,300
就学支援金事務費補助(高校)	465,750
外部検定試験料助成(高校)	3,068,000
私立高等学校等ICT教育設備整備費等補助金 (高校・中学)国庫補助	5,325,000
ICT教育環境整備費助成(高校・中学)東京都補助	9,600,000
ブロック塀等安全対策工事費助成金(小学校)	3,659,000
その他の補助金	437,110
合計	706,492,347

教育環境整備寄付金 2019年4月～2020年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	1,100,000
桐朋女子中学校	10,500,000
桐朋小学校	9,900,000
桐朋幼稚園	5,400,000
合計	26,900,000

③音楽部門

学費		(単位:円)				
項目 学校名	入学金	運営維持費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	150,000 (本学卒業) 350,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	150,000	—	30,000
桐朋学園大学	600,000	300,000 (各年次)	1,360,000	340,000 (1～3年生 編入学生含む) 240,000 (4年生)	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	500,000	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

補助金

国庫補助金

(単位:円)

一般補助(大学院大学)	11,254,000
一般補助(大学)	96,471,000
特別補助(大学) 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実他	13,370,000
令和元年度私立学校施設高度化推進事業費補助金	1,436,000
平成31年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金	47,305,000
計	169,836,000

東京都補助金

一般補助(高校)	58,243,800
特別補助(高校)	6,724,500
都内生就学促進補助(高校)	293,100
結核予防費補助(高校)	16,767
結核予防費補助(大学)	53,318
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	5,466,900
就学支援金学校事務費補助(高校)	346,250
計	71,144,635

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	14,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	20,000,000
計	234,000,000

(4) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	246	237	175	75
	内部 -	259	259	259	259
	計	505	496	434	334
中学校	一般 第1回 約120名	411	366	159	146
	一般 第2回 約60名	674	472	247	62
	内部 -	68	68	68	68
	計	1153	906	474	276
小学校	男子 72名	395	334	48	36
	女子	207	145	60	36
	計	602	479	108	72

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学

() 男子内数

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科音楽専攻	AO	I 期	11	11	11 (0)
		II 期	5	5	5 (1)
		III 期	4	4	4 (0)
		IV 期	8	8	8 (3)
		V 期	4	4	3 (0)
	推薦		3	3	3 (0)
			4	4	1 (1)
	一般	A	1	1	1 (0)
		B			
	社会人	I 期	1	1	1 (1)
		II 期	2	2	2 (0)
		III 期	1	1	1 (0)
	計	50	44	44	40 (6)
専修科音楽専攻	ピアノ	—	14	14	14
	声楽	—	10	10	8
	フルート	—	3	3	3
	オーボエ	—	1	1	1
	クラリネット	—	2	2	2
	トランペット	—	3	3	3
	トロンボーン	—	2	2	2
	テューバ	—	1	1	1
	ヴァイオリン	—	2	2	2
	ギター	—	1	1	1
	箏	—	3	3	2
	尺八	—	2	2	1
	計		44	44	43
演芸科専攻	AO	35	74	74	50
	推薦	学校長等	20	20	17 (3)
		自己	12	12	4 (2)
	一般	10	24	20	13 (3)
	計	70	130	126	84 (19)
芸術科 計		120	174	170	128 (25)
専攻科	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	演劇専攻	20	21	20	20 (8)
	音楽専攻	内部	11	11	11 (3)
		外部	3	3	3 (0)
	計	40	35	34	33 (11)

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校（普）	推薦	約15	9	9	9
	帰国生	約20	6	6	2
	一般	約120	24	24	11
	内部進学	—	160	160	160
	計	—	199	199	182
中学校	一般(A入試)	約130	105	95	85
	Creative English	約10	7	7	6
	論理的思考力&発想力入試	約40	74	51	45
	一般(B入試) 2科	約40	71	22	13
	4科	約40	60	29	27
	帰国生	約20	6	5	5
	計	約240	323	209	181
	内部進学	—	62	62	62
	計	—	385	271	243
小学校	男子	46	248	220	37
	女子	—	138	103	45
	計	46	386	323	82
	内部進学	—	26	26	26
	計	—	412	349	108
幼稚園	男子	26	49	48	15
	女子	—	24	22	15
	計	26	73	70	30

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程	45	69	68	64	63
	博士後期課程	3	4	4	1	1
	小計	48	73	72	65	64
	音楽学部					
	音楽学科 一般	90	104	99	95	80
	指定校推薦一種	10	20	20	20	20
	指定校推薦二種	60	46	46	46	46
	一般推薦	15	15	15	15	15
	特待生	5	7	7	6	6
桐朋女子高等学校	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	180	192	187	182	167
編入学		—	2	2	2	2
桐朋女子高等学校	音楽科 一般	90	57	56	54	53
	一般推薦	10	10	10	10	10
	小計		67	66	64	63
ディプロマ・コース	ソリスト 新規	—	7	7	6	6
	継続	—	11	11	11	11
	カレッジ 新規	—	20	19	19	19
	継続	—	36	36	36	36
	小計		74	73	72	72
研究生	[1]	—	16	16	16	16
	[2] 継続	—	33	33	33	28
	[3]	—	9	9	9	8
	小計		58	58	58	52
科目等履修生	一般	—	15	15	15	14
	小計		15	15	15	14
計			481	473	458	434

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻					
	修士課程 特待生	—	3	3	1	0
	一般	10	9	9	8	8
小計			12	12	9	8
科目等履修生	内部	—	2	2	2	2
	外部	—	0	0	0	0
	小計		2	2	2	2
桐朋 オーケストラ・アカデミー		—	139	134	25	24
	小計		139	134	25	24
計			153	148	36	34

(5) 教職員研究研修

①男子部門

所 属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
高校	中道 淳一	2020年受験用 全国大学入試問題正解 化学 共著・巻頭言担	旺文社	2019年6月27日
		2020年受験用 全国大学入試問題正解 理科 追加掲載	旺文社	2019年7月20日
		書き込みサブノート 化学	旺文社	2019年9月24日
中学	岩崎 晴彦	対話的反映(リフレクション)論 ——個をいかし分断をのりこえる〈文体〉と言語 観・文学観	早稲田大学 国語教育研究 第40集	2020年3月30日
	田中 敦英	『中学3年間の文法・単語・発音が1冊で身につく！英語フレーズ101』	NHK出版	2019年7月15日
小学校	辻 真人	文部科学省検定済教科書 小学校社会科 4年生	日本文教出版	2019年3月1日
		文部科学省検定済教科書 小学校社会科教師用指導書 4年生	日本文教出版	2019年8月1日
		小学校社会科デジタル教科書 教師用指導書 5年生	日本文教出版	2020年2月1日
		これだけは身につけよう『社会科の基礎・応用』 (新指導要領対応版) 私立小学校社会科研究会 共同執筆・編集	東洋館出版社	2019年10月1日

②女子部門

◎部門内研修制度利用者

所 属	個人・共同	氏名(代表者)	研 究 課 題
初等部	共同	川上 幸子	・岩手県岩泉町小本地区に伝わる「中野七頭舞」の踊りとお囃子の習得、 指導法の研究。 ・「中野七頭舞」が伝承されてきた歴史的・文化的背景を学ぶ。 (2018.4.1～2020.3.31)

◎著書、論文、演奏会・公演等

所 属	氏 名	著作、論文、演奏会・公演等	出版社、学会誌名等 (ホール名、劇場名等)	発表年月日
短大	高橋 宏幸	[論文] 「日本の現代演劇の位置 オーストラリア国立 演劇学院の訪問から考える」	『大学で「演技を学 ぶ」ということ 2019 年度「国内外の演劇 実践系大学における 俳優教育の調査研 究とカリキュラム構 築」記録集』玉川大 学 p.150-156	2020年
		[舞台評] 来るべき演劇の未来	『テアトロ』No.958 pp.37-39 カモミール社	2019年4月

◎著書、論文、演奏会・公演等

所属	氏名	著作、論文、演奏会・公演等	出版社、学会誌名等 (ホール名、劇場名等)	発表年月日
短大	高橋 宏幸	異化される「日本」	『テアトロ』No.959 pp. 26-28 カモミール社	2019年5月
		西の国の演劇から東の国へ	『テアトロ』No.961 pp. 72-74 カモミール社	2019年7月
		森の直前の夜にたたずむ人	『テレブシコール通信』 No.173	2019年7・8月
		喜劇のバリエーション：KERA CROSS【フロー ン・ビーチ】 MONO【涙目コント】 りっかりっか* フェスタ【ア・マノ】	『テアトロ』No.965 pp. 82-84 カモミール社	2019年10月
		移動を描くこと：神里雄大/岡崎藝術座【バルパライ ソの長い坂をくだる話】小山ゆうな/世田谷パブリック シアター【チック】多田淳之介/東京デスロック【Anti Human Education】犬飼勝哉【ノーマル】	『テアトロ』No.967 pp. 83-85 カモミール社	2019年12月
		懐かしさから遠く離れて：KAAT神奈川芸術劇場 「NIPPON・CHA! CHA! CHA!」とよはし芸術劇場プ ラット「荒れ野」円盤に乗る派「おはようクラブ」	『テアトロ』No.971 pp. 53-55 カモミール社	2020年3月
		〔新聞評〕 東南アジアの未完の運動——今年2月に開催され た「TPAM」ディレクションから	『図書新聞』No. 3402	2019年6月8日
		鴉座『火曜日はスーパーへ』&若葉町ウォーフ 『やって来たひと』——佐藤信の試み	『図書新聞』No. 3416	2019年9月21日
		2019年 年末回顧	『図書新聞』No. 3434	2020年2月8日
		追悼 別役実	『図書新聞』No. 3441	2020年3月28日
		演劇書年末回顧	『読書人』第3320号	2019年12月20日
		〔エッセイ〕 『街道をゆく』を支えに日本と現代演劇考える	『遼』74号 p22 司馬遼太郎記念財団	2020年1月20日
		〔座談会〕 2019年の日本演劇界 演劇黎明期へ	『テアトロ』No.970 pp. 5-29 カモミール社	2020年2月
		〔発表・その他〕 「ポストヒューマンシアター」ポスト・パフォーマ ンス・トーク	解体社 佐内坂スタジオ	2019年9月28日、 29日、12月22日
中高	岡野屋宏一	〔展覧会出展〕 第71回毎日書道展	国立新美術館	2019年7月10日
		東アジア書教育コンソーシアム 第1回日中韓書教	THEATER1010	2019年8月19日
		第8回玄潮会秋季書展	セントラルミュージアム 銀座	2019年8月28日
		明治神宮鎮座百年祭奉祝 明治神宮書道委員書作展	明治神宮ミュージアム	2019年12月27日
		第52回記念玄潮会書展〈文部科学大臣賞受賞〉	東京都美術館	2020年2月13日
	吉崎亜由美	〔実践事例報告〕 PBLメッセ2019 ～PBLでひらく学びの世界	東京電機大学	2019年6月8日
		2022年から必修科目となる地理総合を見据えた高 校地理Aの授業実践報告	機関誌『開発教育66号 特集：教育の画一性を問 う』	2019年12月13日

③音楽部門
「桐朋学園大学研究紀要」第45集

論文

大学	神保 夏子	国際音楽コンクール世界連盟の成立とその初期の活動(1956～69) ——「国際性」と「公正性」の確立にむけて——
大学	米田 潔弘	ヨーロッパ中近世の女性と宗教 ——イタリアの聖女をめぐる研究と展望——

研究ノート

大学	沼 口 隆	ベートーヴェンの交響曲第1番における主題的関連性とその起源の可能性
大学	大島 路子	音大生キャリア教育の近未来 ——初回ティーチング・アーティスト養成講座を終えて——

4. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

固定資産は、2016年度をピークに減少したものの、2019年度に増加に転じた。2019年度は再び校地校舎の整備が始まったことによる。主なものが、桐朋学園芸術短期大学の「第4実習室」と桐朋学園大学の仙川キャンパス整備事業（「音楽部門第二期工事」）である。

後者は、2019年度において約12億円をかける大きな事業となった。支払は施設設備引当特定資産のほか、現金預金から充当され、2019年度の特定資産及び現金預金は共に前年度より減少することとなった。

負債は、長期借入金が減少した（前年度比3.3%減）。借入金の返済効果もあり、負債総額は前年度比3.5%のマイナスとなった。

(単位：百万円)					
科目\年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産	24,619	24,973	24,943	24,494	24,972
有形固定資産	18,542	20,604	20,121	19,516	20,207
土地	1,541	1,541	1,541	1,541	1,541
建物	12,951	15,245	14,747	14,209	13,768
その他の有形固定資産	4,050	3,819	3,834	3,767	4,899
特定資産	5,284	3,595	3,980	4,143	3,954
その他の固定資産	793	774	842	835	811
流動資産	3,439	3,806	3,770	3,961	3,245
現金預金	2,779	2,998	3,250	3,523	2,676
その他の流動資産	660	808	519	439	569
資産の部合計	28,058	28,779	28,713	28,455	28,217
固定負債	5,216	5,942	5,658	5,467	5,287
長期借入金	2,278	2,923	2,786	2,608	2,431
退職給与引当金	2,510	2,615	2,512	2,522	2,527
その他の固定負債	429	404	360	337	329
流動負債	1,868	1,796	1,800	1,765	1,692
短期借入金	111	111	136	178	178
前受金	1,101	1,082	1,021	982	994
その他の流動負債	656	602	642	604	520
負債の部合計	7,084	7,738	7,458	7,232	6,979
基本金	27,392	28,187	28,474	28,667	30,176
第1号基本金	26,256	27,122	27,409	27,602	29,111
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	713	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 6,418	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937
翌年度繰越収支差額	△ 6,418	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937
純資産の部合計	20,974	21,041	21,255	21,223	21,238
負債及び純資産の部合計	28,058	28,779	28,713	28,455	28,217

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	-22.8	-48.5	-38.1	-29.7	-39.2
流動比率	流動資産 流動負債	184.1 (248.2)	211.9 (246.1)	209.4 (239.5)	224.4 (238.1)	191.7
総負債比率	総負債 総資産	25.2 (14.5)	26.8 (14.4)	25.9 (14.4)	25.4 (14.3)	24.7
前受金保有率	現金預金 前受金	252.4 (364.6)	276.9 (371.8)	318.3 (380.1)	358.5 (376.2)	269.1
積立率	運用資産 要積立額	68.4 (74)	57.5 (72.6)	59.7 (72.4)	59.8 (72.7)	49.9

※()の比率:令和元年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』より

②資金収支計算書

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

学生生徒等納付金収入は減少の一途を辿っている。2019年度は初の60億円台となった。前年度比2.6%減。近年で最も大きな減少率である。手数料収入も前年度比2.8%減となった。ただ、寄付金収入及び補助金収入の増加もあり、収入全体では前年度を上回る約129億円となった。

一方支出は、校地校舎の整備が進行し、施設関係支出が前年度の約10倍に膨らんだ。このため、支出全体は前年度比16.9%増となり、2019年度の収支差額は約8.5億円のマイナスとなった。この結果、翌年度繰越支払資金は2015年度以来最低の約27億円に減少した。

(単位：百万円)

科目\年度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
収入	学生生徒等納付金収入	6,455	6,384	6,370	6,213	6,054
	手数料収入	107	107	101	104	101
	寄付金収入	120	67	36	42	99
	補助金収入	1,844	2,048	1,849	1,841	1,917
	国庫補助金収入	246	463	181	200	247
	地方公共団体補助金収入	1,598	1,584	1,668	1,641	1,671
	資産売却収入	150	10	15	10	0
	付随事業・収益事業収入	15	7	0	1	2
	受取利息・配当金収入	29	24	23	23	21
	雑収入	379	262	354	271	273
	借入金等収入	502	843	64	78	66
	前受金収入	1,101	1,082	1,021	982	994
	その他の収入	2,321	3,595	1,347	853	1,342
	資金収入調整勘定	△ 1,692	△ 1,776	△ 1,524	△ 1,391	△ 1,486
	計 ①	11,330	12,653	9,657	9,027	9,384
前年度繰越支払資金		2,820	2,779	2,998	3,250	3,523
収入の部合計		14,150	15,432	12,655	12,278	12,907
支出	人件費支出	6,079	5,711	5,912	5,800	5,631
	教育研究経費支出	1,841	1,773	1,516	1,537	1,611
	管理経費支出	378	366	421	350	364
	借入金等利息支出	0	3	10	11	13
	借入金等返済支出	180	238	221	240	275
	施設関係支出	1,407	2,602	139	129	1,356
	設備関係支出	158	327	139	79	160
	資産運用支出	909	924	694	169	446
	その他の支出	587	640	536	590	549
	資金支出調整勘定	△ 166	△ 150	△ 182	△ 151	△ 174
	計 ②	11,371	12,434	9,404	8,755	10,232
当年度収支差額 (①－②)		△ 41	219	253	272	△ 847
翌年度繰越支払資金		2,779	2,998	3,250	3,523	2,676
支出の部合計		14,150	15,432	12,655	12,278	12,907

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

2019年度は、支払資金が8.5億円減少した。桐朋学園芸術短期大学の演劇実習室と女子部門初等部の「しぜん広場」に約1.1億円、桐朋学園大学の仙川キャンパス第二期工事に約12億円の投資が行われたことが主な要因である。後者のキャンパス整備の方では、特定資産から4.3億円を充当したものの、支払資金からの持ち出しが多くなった。以上の結果、施設整備等活動資金収支差額は、約11億56百万円のマイナスとなっている。

教育活動資金収支差額は、2016年度以降は7億円台を維持している。ただ、2019年度はプラス幅が前年度に比べ小さくなった。学納金や手数料は減少したとはいえ、寄付金や補助金の増加によって、収入全体が漸減程度に抑えられた(1.1%減)一方で、支出全体が人件費の減により1.3%減少した。

その他の活動収支差額は、支払資金減少の要因の一つであるが、そのマイナスは周年記念で頂いたご寄付を特定資産化したことによる影響である。

(単位：百万円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,727	8,513	8,676	8,441	8,348
教育活動資金支出計	8,296	7,848	7,846	7,687	7,583
差引	432	665	830	755	765
調整勘定等	△ 54	99	△ 100	2	△ 36
A 教育活動資金収支差額	377	764	730	757	729
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	1,357	2,967	34	31	528
施設整備等活動資金支出計	2,111	3,738	744	359	1,617
差引	△ 754	△ 771	△ 710	△ 328	△ 1,089
調整勘定等	△ 84	△ 218	303	2	△ 67
B 施設整備等活動資金収支差額	△ 838	△ 989	△ 407	△ 326	△ 1,156
小計(A+B)	△ 461	△ 225	323	431	△ 427
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,374	1,280	776	524	630
その他の活動資金支出計	954	837	846	682	1,053
差引	420	443	△ 70	△ 158	△ 422
調整勘定等	△ 0	1	△ 0	△ 0	2
C その他の活動資金収支差額	420	444	△ 70	△ 158	△ 420
支払資金の増減額(小計+C)	△ 41	219	253	272	△ 847
前年度繰越支払資金	2,820	2,779	2,998	3,250	3,523
翌年度繰越支払資金	2,779	2,998	3,250	3,523	2,676

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動	教育活動資金収支差額	4.32	8.97	8.41	8.96	8.73
資金収支差額比率	教育活動収入	(11.8)	(12.6)	(12.5)	(12.6)	

※()の比率:令和元年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』より

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

経常収支差額は2019年度、約17百万円。僅かではあるが収入超過となった。内訳は、教育活動収支差額での約11百万の収入超過、教育活動外収支での約6百万の収入超過となる。

しかし、教育活動収支差額は前年度マイナスであった。それがプラスに転じたのは、東京都の経常費補助金が関係する。前年度比約19百万円増加した。主に補助単価のアップによる。

大方の学校法人同様、本法人も借入利息より受取利息が大きく、経常収支差額のほうが、教育活動収支差額よりもプラスが大きい。2019年度の収入超過も、教育活動外収支の影響が大きい。ただ、受取利息は減少傾向にある。したがって、教育活動はもちろんのこと、教育活動外での収入増、即ち資金運用等への取組も、本法人が継続法人であるためには大事な要素である。

(単位：百万円)

科目\年度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,455	6,384	6,370	6,213	6,054
	手数料	107	107	101	104	101
	寄付金	33	38	34	41	98
	経常費等補助金	1,741	1,717	1,818	1,811	1,820
	国庫補助金	154	148	178	187	177
	地方公共団体補助金	1,588	1,569	1,640	1,624	1,643
	付随事業収入	12	8	1	2	3
	雑収入	136	177	149	127	214
	収入計	8,483	8,431	8,472	8,297	8,291
	人件費	5,828	5,731	5,603	5,666	5,579
	教育研究経費	2,399	2,370	2,199	2,222	2,287
	減価償却額	558	597	683	685	676
	管理経費	433	426	490	431	413
	減価償却額	57	61	72	81	72
	徴収不能額等	4	3	1	0	1
支出計		8,664	8,530	8,293	8,319	8,279
収支差額		△ 181	△ 99	180	△ 22	11
教育活動外収支	受取利息・配当金	27	21	21	20	19
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	収入計	27	21	21	20	19
	借入金等利息	0	3	10	11	13
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	支出計	0	3	10	11	13
収支差額		27	18	11	8	6
経常収支差額		△ 155	△ 81	191	△ 13	17
特別収支	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	217	366	40	38	103
	収入計	217	366	40	38	104
	資産処分差額	185	216	14	56	83
	その他の特別支出	2	2	3	0	23
	支出計	187	218	16	56	105
収支差額		30	148	23	△ 18	△ 2
基本金組入前当年度収支差額 (事業活動収支差額比率)		△ 124 (△1.42%)	67 (0.76%)	214 (2.51%)	△ 32 (△0.38%)	15 (0.18%)
基本金組入額合計		△ 226	△ 886	△ 288	△ 230	△ 1,589
当年度収支差額		△ 351	△ 819	△ 74	△ 262	△ 1,574
前年度繰越収支差額		△ 6,143	△ 6,418	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444
基本金取崩額		76	92	0	37	81
翌年度繰越収支差額		△ 6,418	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937
(参考)						
事業活動収入計		8,727	8,818	8,533	8,355	8,413
事業活動支出計		8,851	8,751	8,319	8,387	8,398

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費	68.4	67.8	65.9	68.1	67.1
	経常収入	(49.9)	(49.8)	(49.5)	(49)	
教育研究経費比率	教育研究経費	28.1	28	25.8	26.7	27.5
	経常収入	(39)	(39)	(39.6)	(40)	
管理経費比率	管理経費	5.0	5.0	5.7	5.1	4.9
	経常収入	(7.3)	(7.1)	(6.9)	(6.9)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	-1.4	0.7	2.5	-0.3	0.1
	事業活動収入	(4.4)	(4.7)	(4.6)	(4)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	75.8	75.5	75.0	74.6	72.8
	経常収入	(51.9)	(51.8)	(51.5)	(51.5)	
経常収支差額比率	経常収支差額	-1.8	-0.9	2.2	-0.1	0.2
	経常収入	(3.5)	(3.8)	(3.7)	(3.7)	

※()の比率:令和元年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』より

(2) 主な収入の推移

① 学生生徒等納付金収入

男子部門は小中高全体で前年度並みの生徒数を確保した。中学は学級定員の削減計画により減少傾向にあったが、歩留まり率の高まりにより、2019年度は前年度比10名増となった。

女子部門は、中高合わせて106名、前年度より減少した。累年の入学者数減による。音楽部門の大学でも同様の傾向を示しており、前年度比マイナス35名と、2015年度以来最大の減少幅となった。

(単位：人、千円)

部門	年 度	学生生徒等数					学生生徒等納付金収入				
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
男子部門	桐朋高等学校	976	965	971	972	961	694,645	685,838	690,679	675,051	667,402
	桐朋中学校	810	794	789	778	788	625,053	613,023	622,488	621,157	625,739
	桐朋学園小学校	424	427	428	430	432	302,160	304,495	313,300	308,643	312,955
	計	2,210	2,186	2,188	2,180	2,181	1,621,858	1,603,355	1,626,467	1,604,851	1,606,096
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	313	320	324	317	322	466,796	478,704	477,092	448,625	451,965
	桐朋女子高等学校（普通科）	818	763	720	636	553	562,335	523,716	477,099	408,818	359,444
	桐朋女子中学校	656	595	547	513	490	515,981	468,317	437,224	402,101	384,650
	桐朋小学校	430	435	434	429	432	363,449	367,335	363,629	360,974	367,289
	桐朋幼稚園	79	80	66	78	78	70,775	71,077	56,923	74,697	65,673
	計	2,296	2,193	2,091	1,973	1,875	1,979,335	1,909,149	1,811,967	1,695,215	1,629,021
音楽部門	桐朋学園大学院大学	23	21	22	21	20	22,400	19,400	21,900	19,400	19,700
	桐朋学園大学大学院	—	—	60	102	103	—	—	98,828	156,079	160,184
	桐朋学園大学音楽学部	759	763	748	717	682	1,734,040	1,770,459	1,718,216	1,667,337	1,593,319
	桐朋女子高等学校（音楽科）	207	202	198	180	157	296,880	293,368	279,523	252,521	220,435
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	2,190	2,127	2,169	2,287	2,154	760,176	751,961	773,643	776,204	783,812
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	64	61	61	61	64	39,852	36,403	39,391	41,472	41,820
	計	3,243	3,174	3,258	3,368	3,180	2,853,347	2,871,590	2,931,502	2,913,013	2,819,270
法人合計		7,749	7,553	7,537	7,521	7,236	6,454,541	6,384,095	6,369,936	6,213,079	6,054,386

※ 学生生徒数は各年度5月1日現在である（但し、子供のための音楽教室は3月31日現在）。

② 入学検定料収入

男子部門は小学校で志願者数をわずかに増やし、中高ではわずかに減少したものの、全体ではほぼ前年度並みを確保した。女子部門においても総じてその数を増やすことができた。同様の傾向が音楽部門においても当てはまる。三部門ともに志願者の安定的確保が強く課題として意識されてきたことの表れである。

(単位：人、千円)

部門	年 度	志願者数（内部進学者を含む）					入学検定料収入				
		2016年度 入学者	2017年度 入学者	2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2016年度 入学者	2017年度 入学者	2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者
男子部門	桐朋高等学校	588	511	527	500	505	8,125	6,225	6,625	6,425	6,150
	桐朋中学校	1,150	1,207	1,126	1,174	1,153	25,405	26,946	25,188	26,185	26,030
	桐朋学園小学校	501	564	557	559	602	12,975	14,625	13,975	14,375	15,300
	計	2,239	2,282	2,210	2,233	2,260	46,505	47,796	45,788	46,985	47,480
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	272	278	199	215	174	8,320	8,425	5,730	7,360	6,175
	桐朋女子高等学校（普通科）	252	248	214	182	199	1,012	1,403	1,196	1,012	1,196
	桐朋女子中学校	441	430	337	369	385	8,641	7,141	5,807	7,002	7,210
	桐朋小学校	326	356	353	370	412	8,350	8,950	8,925	10,125	10,550
	桐朋幼稚園	85	66	4歳児 3歳児	77 79	98	1,700	1,300	3,120	2,140	1,460
	計	1,376	1,378	1,259	1,234	1,243	28,023	27,219	24,778	27,639	26,591
音楽部門	桐朋学園大学院大学	11	17	11	13	14	290	520	320	470	360
	桐朋学園大学大学院音楽研究科	—	83	60	67	73	—	2,490	1,800	2,010	2,190
	桐朋学園大学音楽学部	239	212	196	187	187	17,415	15,593	15,135	14,062	10,478
	桐朋女子高等学校（音楽科）	75	56	56	55	67	4,011	2,940	2,993	2,888	3,518
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	—	—	—	—	—	3,012	3,091	3,075	2,968	2,844
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	90	104	112	128	135	929	1,102	1,210	1,382	2,228
	計	415	472	435	450	476	25,656	25,735	24,532	23,779	21,617
法人合計		4,030	4,132	3,904	3,917	3,979	100,184	100,750	95,098	98,403	95,688

※ 志願者数は、転編入を除き、内部進学を含む

③補助金収入

ア) 補助金部門別交付額の推移

2019年度東京都経常費補助金は、中学・高校の「学級割」を除き、全ての項目で単価の増額が行われた。その影響もあり、桐朋女子高等学校音楽科を除いた全ての学校でプラスになった。部門単位では、前年度と比べ、男子部門：約8百万円、女子部門：約13百万円増加している。

音楽部門では、2019年度分の仙川キャンパスの第二期建築に伴う補助金として47百万円が含まれている。

(単位：千円)

部門・学校\年度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
男子部門	桐朋高等学校	339,915	342,838	388,595	388,358	404,992
	桐朋中学校	207,357	212,219	224,773	223,238	234,596
	桐朋学園小学校	104,639	104,773	116,516	117,258	116,155
	計	651,911	659,830	729,885	728,854	755,743
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	42,825	44,475	49,961	53,127	55,604
	桐朋女子高等学校（普通科）	341,267	321,360	347,879	334,899	349,146
	桐朋女子中学校	212,710	208,034	184,824	175,822	180,848
	桐朋小学校	104,471	104,650	111,539	106,424	110,052
	桐朋幼稚園	9,415	11,428	12,479	11,229	10,842
	計	710,687	689,947	706,682	681,502	706,492
音楽部門	桐朋学園大学院大学	97,003	106,145	107,713	120,698	115,749
	桐朋学園大学大学院	—	—	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	191,946	406,803	124,150	135,081	158,635
	桐朋女子高等学校（音楽科）	69,590	69,818	71,489	71,575	71,091
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	0	0	14	0	0
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	122,879	115,094	108,677	103,631	109,505
	計	481,419	697,859	412,042	430,986	454,981
法人合計		1,844,017	2,047,637	1,848,609	1,841,342	1,917,216

イ) 補助金種類別交付額の推移

私立大学等経常費補助金（国庫補助金）は、多少の増減はあるものの、大きな影響はなく推移している。

東京都の経常費補助金は、在籍児童生徒数、教職員数等により影響を受ける。2019年度が前年度比1.3%増になったのは、補助単価の増額によるところが多い。

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国庫補助金	経私立大学等補助金	一般補助	134,664	128,400	152,527	164,236	161,223
		特別補助	19,055	19,295	17,810	22,255	15,370
		計	153,719	147,695	170,337	186,491	176,593
	その他（施設設備補助金等）	92,011	315,580	10,675	13,749	70,086	
	計	245,730	463,275	181,012	200,240	246,679	
地方公共団体補助金	経東京都補助金	一般補助	1,285,111	1,263,097	1,288,226	1,268,500	1,289,176
		特別補助	66,212	66,757	63,245	61,828	58,171
		計	1,351,323	1,329,854	1,351,470	1,330,327	1,347,347
	私立高等学校授業料軽減補助金		26,011	23,878	67,676	78,554	76,168
	結核予防費都費補助金		327	317	302	285	269
	私立高等学校都内生就学促進補助金		2,204	2,048	2,672	1,592	1,731
	富山市補助金		210,000	210,000	210,000	213,000	214,000
	その他（施設設備補助金等）		8,421	18,265	35,477	17,343	31,022
	計		1,598,287	1,584,362	1,667,597	1,641,102	1,670,537
法人合計			1,844,017	2,047,637	1,848,609	1,841,342	1,917,216

(3) その他

①有価証券の状況

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	59,776	62,038	特定資産(江戸奨学特定資産)
債券	国債	1口	12,809	13,802	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	31,977	34,505	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	103,970	115,936	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	105,554	118,012	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	100,000	115,240	有価証券
債券	国債	1口	49,928	55,755	有価証券
債券	国債	1口	208,195	231,740	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,530	22,712	有価証券
債券	国債	1口	101,517	113,700	有価証券
債券	大阪府公債	1口	49,964	50,925	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	105,554	116,990	有価証券
債券	大阪市公債	1口	102,960	113,560	有価証券
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	新日本製鐵(株)	1650口	896		有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811		有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	2000口	100		有価証券
		計	1,054,740	1,164,915	

②借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,388,750	0.50%	2033年3月～2034年3月	校地
日本私立学校振興・共済事業団	1,041,900	0.38% 0.50%	2035年9月～2036年9月	校地
東京都私学財団	200	0.00%	2023年3月	なし
計		2,430,850		

③学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限	摘要
2015年度	72,450	0.00%	2021年3月	男子:61,200 女子:11,250
2016年度	77,200	0.00%	2022年3月	
2017年度	65,800	0.00%	2023年4月	
2018年度	76,300	0.00%	2024年3月	
2019年度	51,600	0.00%	2025年3月	
2020年度	57,600	0.00%	2026年3月	
計		400,950		

④寄付金の状況

(単位：千円)

種類	寄付者	金額	摘要
桐朋奨学会基金への寄付	新入生保護者	2,445	210口
奨学会への寄付	小学校新入生保護者、短大保証人	1,430	196口
生徒特別教育活動基金への寄付	中高新入生保護者	835	167口
帰国子女教育活動基金への寄付	中高帰国生(新入生)保護者	200	10口
備品購入寄付	2019年度卒業小6保護者	144	ウォータークーラー代の一部
学園債の寄付	卒業生保護者	400	4口
一般寄付	長木健悟様	100	
一般寄付	大野孝幸様	200	
一般寄付	クラスPTA	8	
一般寄付	卒業生、在学生保護者他	30,952	336口
一般寄付	—	1,000	1口
緑と文化基金への寄付	卒業生PTA	1,784	
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	(特非)イロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	6,000	1,200千円×5名
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	江崎正道様	10,000	5,000千円×2名
桐朋学園音楽部門70周年記念基金寄付金	—	43,000	2口
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	—	385	5口
現物寄付(図書)	中高PTA他	1,202	
現物寄付(絵画)	45期同窓会	202	
現物寄付(壁掛時計・図書)	2018年度卒業小6保護者他	861	
現物寄付(図書)	—	3,000	914点
計		104,148	

⑤関連当事者の状況

役員・法人等名称	資本金又は出資金	取引の内容	取引金額
理事 鈴木 正義	—	本法人の東京都私学財団からの借入金債務(入学支度金)に対する連帯保証人である。保証料の支払いは	200
理事 片岡 哲郎	—	特別資金貸付内規に基づき、男子部門より資金を借り受けている。	4,742

(4) 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

①男子部門

経営上の最大の目標となる児童生徒数については、今年度も継続して安定的に確保できたと言える。今後の受験人口減に備え、クラス定員減も行っているが、より一層の学校規模の縮小が課題となっている。教員数の減少により教育活動が停滞することがないように工夫をする必要がある。

コロナウイルス感染症拡大防止のため長期間にわたって児童生徒が登校しての対面授業を行うことができない状態になった。この間の学校活動を補うためにオンライン授業を行った。このオンライン授業を実施するための各家庭での環境整備を目的として児童生徒一人当たり一律50,000円の支援金を給付した。勘定科目としては教育研究経費の福利厚生費を予定し、総支出としては109,450,000円が同科目に計上されることになる。

②女子部門

2019年度は、長年、借地として利用してきた隣地の返還に伴い、短大の第4実習室の建築、初等部のしぜん広場の造成等、比較的多額の施設設備関係支出があった。

また、消費税の増税等による支出の増加やICT教育の充実等、新たな費用負担に対応するため、ほぼ20年ぶりに、2020年度から女子部門の全ての学校で授業料等を増額改定することが理事会で承認された。

ここ数年検討を続けてきた、入学時寄付金以外の同窓生や在校生保護者等からの一般向け寄付金の募集を、ウェブサイトから申し込み、クレジットカード決済ができる形で開始した。年度途中の11月からの稼働だったが、予想を上回る金額の寄付金をいただく事ができた。

財務全般を見ると、ここ数年は主に中高の在籍数の減少に伴う学納金収入の減少と教職員の人員減による人件費の減少に期間のずれが生じることで、事業活動収支、繰越支払資金に厳しい状況が続くと見込んでいる。寄付金募集のより積極的な働きかけや戦略的な補助金の獲得等、学納金以外での収入増をいかに図るかが課題として挙げられる。

2019年度の後発事象として、新型コロナウイルスによるオンライン授業の導入に伴う各家庭での環境整備を目的として、2020年5月に全在学生に一律56,000円の給付を行い、教育研究経費の福利厚生費支出が例年と比較して、約1億100万円の支出増となった。

③音楽部門

収入の大きな柱である学生生徒等納付金は、新入生の増減によって大きく変動する。今年度受け入れた新入学生については、高校、大学共に昨年度より改善が見られたが、依然として定員を満たしてはいない状況であり、今後とも募集対策に傾注する必要がある。

新型コロナウイルス感染症の防止のため、新年度の各授業はオンラインの形でスタートした。生徒や学生がオンライン授業に対応するためには各自、色々な負担があることを予測し、高校、大学、大学院、大学院大学における校納金を一律10万円減免することとした。勘定科目としては、教育研究経費の奨学金支出を予定し約1億円を計上することとなる。また、このコロナ禍のためにアルバイト収入が減少し、経済的に窮地に陥っている学生に対しては、宗次徳二氏からの援助を得て、一人3万円の給付を121名に対して行った。また、同氏からは、第2弾として、授業料を納付して学業を継続するのに困難な学生のために、授業料の一部に充てる奨学金支給の申し出があり、急ぎ募集を行うことにしている。

新型コロナウイルス感染症の影響は私学の経営に大きな打撃を与えるだろうと懸念しており、桐朋で音楽を学びたいと志している若者が、安心して桐朋への進路を選べるように、考えられるあらゆる方策を講じていく所存である。